

県立多治見病院 緩和ケアチーム通信

発行：県立多治見病院 緩和ケアチーム VOL.12 2012年 3月号

文責：志津 匡人 編集：小木曾 理佐

* アドバンス・ケア・プランニング(ACP)について *

こんにちは、緩和ケアチーム身体症状担当の志津です。先月号に続いての登場ですが、お付き合いください。

先月号では、アドバンス・ケア・プランニング(以下ACP)とは何なのかを簡単に紹介しました。

(病院のホームページから緩和ケア通信2月号参照)

今月号では、ACPが必要な理由を紹介します。まず、ACPを行うことにより終末期における患者さんご家族の満足度の上昇につながるという報告や遺族の不安、抑うつ軽減につながるという報告もされています。患者さん自身の希望を聞くだけでは、このような満足度の変化は得られないとも報告されています。つまりACPを行うことは、最期のことを本人自らが決断すること自体が重要なのではなく、価値観の共有が根本意義であり、患者さんがどんな人なのかを知り、患者さんも共有された、自分が尊重されているということを感じとり、今後も(たとえ意識が無くても)ぞんざいには扱われないだろうという信頼関係を構築することにつながっているのです。

私自身、日々の診療のなかで、型通りのDNAR(蘇生処置不要)の方針を決めることに不自然さを感じることは多々ありました。患者さんご家族とわれわれ医療スタッフとの間にはっきりとした形ではないのですが、何となくほわっとしたものに包まれたような関係を築き、あえてDNARのオーダーを形式通りにとらなくても自然に最期を看取することで誰もが納得できる、これがACPを行うこと目的ではないでしょうか。ACPをどんな場合でもすることは難しいことだと思いますが、今後の診療の目標の一つに取り組みたいなと思っております。

2号にわたってACPを紹介しましたが、文章では中々分かりにくかったと思います。平成24年度の緩和ケア勉強会でACPを取り上げ、緩和ケア内科部長の伊藤先生より分かりやすい講義がある予定です。ふるってご参加ください。



第8回緩和ケア勉強会を行いました。

3月8日に緩和ケア勉強会を行いました。

今回は『コミュニケーション』をテーマに、山本がん看護専門看護師、水野医療相談員、金沢退院調整看護師長、小林医療連携看護師長からお話をいたしました。

質問とそれに対する回答は、病院ホームページ内の緩和ケア内科にある緩和ケア掲示板をご覧ください。



4月の講演会予定

12日 第1回 緩和ケア講演会

時間：18時～19時半

場所：中央診療棟3階講堂

テーマ：『在宅での緩和ケア』

演者：浜田・浅井医院 院長 浜田 茂彰先生

